



## —タンチョウの未来のために— 採食地の環境整備を実施

私たちが大切に考える3つの分野 ▶ 〈地球との共生〉 〈地域社会への貢献〉 〈次世代育成〉

01.「日本野鳥の会」の原田さん(一番左)の説明を受けるJALグループ社員。02.03.タンチョウの移動の妨げになる樹木を伐採しました。04.レンジャーの皆さんと参加者一同にて。05.夕暮れ時に飛来するタンチョウ。

多様ないのちを守り、  
豊かで美しい地球を未来へ

JALグループでは、豊かな自然や美しい日本の姿を未来へ繋げるべく、「JALグループ 生物多様性方針」を定めています。例えば、国の特別天然記念物「アマミノクロウサギ」の住む奄美大島で森林保護活動を行うなど、これまでに生物多様性の啓発や自然環境の保護活動に取り組んできました。

タンチョウが暮らしやすい  
環境作りに向けて

国の特別天然記念物であり、北海道東部を中心に生息する「北海道の鳥」でもあるタンチョウ。約30年前は400羽ほどだったのに対して、現在は約4倍の数に増えたといわれています。一定の場所に過密化することは好ましい状況ではなく、

りなどを実施。タンチョウがスムーズに移動できるよう牧草地と河川を結び、程よい空間と通路を確保しました。

作業後には自然観察を行い、10センチメートルほどの魚影や水生昆虫を発見するなど、命を繋いでいく役割がそれぞれの生き物にあり、その営みが繋がっていることを学びました。また、観察中にタンチョウの鳴き声が聞こえ、きつと「倒木を片づけてくれてありがとう」と喜んでいたので、歓声が上がりました。

活動に参加した社員からは、「タンチョウを含むすべての生物のため、環境に優しい飛行を心掛けなければいけないと感じた」「タンチョウが安心して食事できるよう、継続的にこの活動に参加したい」などの声がかれ、北海道の大自然とタンチョウを大切にしていきたいと、社員一人一人が気付きを残し、啓発活動としても大きな役割を果たしました。

北海道との間で包括連携協定を締結している日本航空は、北海道における環境保全に寄与する取り組みを推進しています。今後もJALグループ一丸となって、生物多様性の保全に向けた啓発・保全活動に、積極的に取り組んでまいります。



環境省は、タンチョウの分散を目指すために、2015年から給餌量を年1割ずつ削減し、2019年には半分にする計画を実施しています。今後は、タンチョウが給餌に頼らず、自力で餌を捕ることができるよう自然の採食地を増やすことがより重要になっていきます。

そこで私たちJALグループ社員有志は、今年で2回目となるタンチョウの冬の採食地の環境整備を行いました。

公益財団法人日本野鳥の会が運営する「鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ」のレンジャー指導のもと、河川を塞いでいる倒木をノコギリで伐採したり、生い茂った笹の刈り取



第3回／釧路市長賞  
『夕映えに飛ぶ』 林 雄大さま

### 第4回『JALタンチョウフォトコンテスト』を開催します

生物多様性を守ることの大切さを皆さまと共有し、将来の世に伝えたいという想いを込めて、本コンテストを実施いたします。タンチョウを通じて心に抱いた、美しい日本へのあなたの想いを、タンチョウ写真とメッセージに込めてお寄せください。ご応募、お待ちしております。

■作品公募期間：2018年1月5日(金)～3月25日(日)

■結果発表：2018年5月下旬

■賞：[JAL賞] JAL国内線往復航空券(ペア1組) ほか

ご応募はこちらから [www.jal.com/ja/happyeco/tancho2017/](http://www.jal.com/ja/happyeco/tancho2017/)



2015年9月、全国連加盟国(193カ国)により「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」が採択されました。2030年までに、貧困や気候変動、平和的社会などの17の目標を達成すべく、JALグループも社会課題の解決に取り組んでいきます。

今回のテーマに当てはまる目標



■私たちが取り組むCSR活動に関する詳細は、こちらでもご覧いただけます。  
[www.jal.com/ja/csr/](http://www.jal.com/ja/csr/)

第3回 JALタンチョウフォトコンテスト  
審査員特別賞  
『仲睦まじく』 多田友彦さま